

第 1 回京都市小学校教科書選定委員会会議概要

1 日時

令和 5 年 5 月 2 9 日（月） 1 8 時 3 0 分から 2 0 時 1 5 分まで

2 会場

京都市総合教育センター 永松記念ホール 他

3 出席者

(1) 選定委員 1 0 7 名（3 名欠席）

(2) 教育委員会事務局 8 名

・教 育 長 稲田 新吾

・指導部担当部長 福知 賢治

・学校指導課長 近藤 卓

・学校指導課統括首席指導主事 野口 尚志

・指 導 部 長 稲田 雅己

・指 導 部 顧 問 清水 稔之

・学校指導課担当課長 土屋 和夫

・学校指導課首席指導主事 栗本 浩行

4 議事

教科書選定に関わる教育長からの諮問及び教育委員会事務局からの説明の後、各教科調査研究部会で協議が行われた。

(1) 稲田教育長から挨拶及び令和 6 年度から令和 9 年度まで京都市立小学校及び義務教育学校（前期課程）において使用する各教科教科書の選定についての諮問を行った。

(2) 栗本首席指導主事から教科書選定の日程・教科書展示会の説明採択方法など概要説明、土屋課長より、公正確保についての説明を行った。

(3) 委員の互選により正副委員長が選出された。

(4) 調査研究部会全体会で、業務内容説明及び部会長、副部会長の選出が行われた後、各部会において、調査研究における「選定の視点」や調査研究方法、今後の部会開催日程について協議が行われた。

第2回京都市小学校教科書選定委員会会議概要

1 日時

令和5年6月27日（火）18時30分から20時15分まで

2 会場

京都市総合教育センター 1階 第1研修室

3 出席者

(1) 選定委員 108名（2名欠席）

(2) 教育委員会事務局

・指導部長 稲田 雅己

・指導部担当部長 福知 賢治

・指導部顧問 清水 稔之

・学校指導課長 近藤 卓

・学校指導課担当課長 土屋 和夫

・学校指導課統括首席指導主事 野口 尚志

・学校指導課首席指導主事 栗本 浩行

他

4 議事

(1) 委員長から挨拶が行われた。

(2) 事務局から教科書採択事務の現況について説明を行った後、教科部会ごとに部会長、副部会長及び指導主事等から、現時点での調査研究の状況についての報告を行い、外部委員からの意見を踏まえ、協議した。（当日は選定委員会と並行し、各教科調査研究部会も開催された。）

5 外部委員の主な意見と調査員及び事務局の回答

(1) 各教科内容について

・国語科について、低学年における学力差、特に語彙力の差を生じさせないため、語彙力を培うための工夫に各社で差はあるか。

→ 各社とも、言葉による見方・考え方を働かせ、語彙を習得できるよう意識して作られており、大きな違いは特になく、巻末などに言葉に特化した説明ページを設けるなどの工夫がみられる。

・子どもの理科離れが切実である。例えば、めあてが明確で、子どもが生きていくうえで役に立つと感じられる内容になっているなど、理科の単元が身近になるような工夫について現在のものと比べて新しい教科書はいかがか。

→ 発問の仕方が子どもの思考に沿っているほか、問題解決までの流れを線でつなげて表記する点など、子どもにとって視覚的に分かりやすく工夫されている。また、QRコードも豊富に用意されており、学習を発展させる内容のものが多い。

・算数科の「単位量当たりの大きさ」は子どもがつまずきやすい単元である。低学年から、数の感覚を丁寧に教えて高学年につなぐことが重要だと思うが、各社の取扱いはどうか。

→ 割合の単元は4年生から取り組む。「倍」の取扱いについても内容を増やしている出版社もある。出版社によっては、1年生の教科書を分冊にし、操作活動をしやすくすることで数感覚を養う工夫がなされている。

・理科は、観察や実験の様子が豊富な写真で示され見やすく、分かりやすい。自然事象なども過程が丁寧に掲載されていることは児童の問題解決にとって大切であり、よく工夫されている。

- ・ 生活科、音楽科、図画工作科の教科書は、主体性をもって、自分で取り組む姿勢を促す仕組みになっているのが良い。
- ・ 生活科の教科書は、教員にとっては授業のイメージとなるが、授業の中で子どもはどのように教科書を活用しているのか。
- 生活科の授業では、教科書をサンプル・事例として活用している。授業中では毎時間教科書を開くわけではなく、各自必要に応じて教科書を見たり、家庭では「どんな活動になるのかな」と予習したりしている。
- ・ 音楽科は、授業一コマで、何ができるようになるのかという「目的（めあて）」よりも、活動が先行しがちになっているように思う。1時間で身につける力を教員は教科書から読み取れるよう工夫されているか。
- 各社で表記は違うが、「みつける」「考える」などのマークで「めあて」等は示されており、教員も子どもも見通しをもって資質・能力を意識した活動ができるようになっている。
- ・ 図画工作科で、タブレット端末で制作過程を撮影し、それをポートフォリオ形式で記録しながら作品を作る様子を見たことがあるが、そのような使い方は教科書にも示されているか。
- 制作過程を写真などに撮り、つくり変える様子を記録する実践例は現場においてもある。教科書におけるタブレット端末の活用例は、対話的な学びの例示が多いのが特徴である。
- ・ QRコードは授業の中でどのように活用するのか。授業中に観ていると45分間では収まらないように思う。
- 例えば家庭科では、調理実習の火加減の具合などを予習するために観るほか、縫い方の手技やミシンの操作方法など、個々で繰り返し観て確かめながら作業するなどして活用している。
- ・ QRコードの内容自体、とても工夫されている。もっと活用が広がると良い。
- ・ QRコードの掲載は保護者の目線で見ると、家庭学習などで子ども・保護者とも分からないところが出てきた時に問題解決の一助になるため、とても良いと思った。
- ・ 保健体育科では、問題点を子どもに気付かせるアプローチが3社とも違い、よく考えられていると感じた。教科書をこのように見比べる機会がないので、とても参考になった。
- ・ 子どもは、家庭科で裁縫を学び、家庭でもチャレンジするようになる。家庭科の教科書で、自分も家庭の一員であるということを実感させるのは大事である。5年生くらいで、手先の器用さから得意・不得意が出てくると思うが、どのように指導されるのか。
- 中学校・高校の家庭科教科書のつくりは内容ごとに編集されているが、小学校の教科書は、基礎から応用に向かっていくような題材配列になっている。導入も、生活を振り返ることから始まり、調理実習など楽しみながら学習に入るようになっている。子どもは調理や製作実習が好きなので、実習を導入にして理論に入るよう工夫されている。また、学校で学んだことを家の人に伝えよう、家庭でもやってみようという流れになっており、学校でも家庭で学びを活かすよう指導している。
- ・ 授業参観の際、外国語の授業においてペア活動で会話する際、話しかけられた方が反応の仕方に困っている場面を見たことがあるが、教科書に応答の仕方（Good 等）が掲載されているのが良い。
- ・ 道徳の教材について、主人公がいじめられているパターンの教材は掲載されているか。
- 低学年であれば、動物が登場人物となった物語で主人公がいじめを受けるような教材もある。いじめをなくすためには、傍観者を作らないことが大切であり、また、傍観者になりかねない場面に遭遇することの方が多という点から、主人公がいじめの当事者ではなく、周辺人物として書かれている教材が多いのではないかと考えている。

第3回京都市小学校教科書選定委員会会議概要

1 日時

令和5年7月24日（月）18時30分から20時15分まで

2 会場

京都市総合教育センター 1階 第1研修室

3 出席者

(1) 選定委員 108名（2名欠席）

(2) 教育委員会事務局

- | | |
|------------------|------------------------|
| ・指導部長 稲田 雅己 | ・指導部担当部長 福知 賢治 |
| ・指導部顧問 清水 稔之 | ・学校指導課長 近藤 卓 |
| ・学校指導課担当課長 土屋 和夫 | ・学校指導課統括首席指導主事 野口 尚志 他 |

4 議事

(1) 委員長から挨拶が行われた。

(2) 事務局から教科書採択事務の現況について説明を行った後、教科部会ごとに部会長、副部会長及び指導主事等から、調査研究の結果及び答申案についての説明を行い、外部委員からの意見を踏まえ、協議した。（当日は選定委員会と並行し、各教科調査研究部会も開催された。）

(3) 答申案については、正副委員長の預かりとすることで了承された。

5 外部委員の主な意見と調査員及び事務局の回答

(1) 各教科の内容について

・ 国語科について、読書活動の充実の視点で説明いただいた。学校図書館の活用などは大切な視点であり、その点を調査研究し、比較されたのは分かりやすい説明であった。

・ 地図については、東京書籍は紙面が読み取りにくいという評価だが、東京書籍の社会科の教科書に掲載されている地図が読み取りにくいということはないか。

→ 地図帳ほどの詳細な地図は教科書には掲載されておらず、問題ない。

・ 多くの教科で現在使用している教科書と同じ出版社が高く評価されているが、同じ出版社が継続されると教員が指導しやすいのか。積み上げが特に大切な算数についていかがか。

→ 例えば1年生の計算の単元では数図ブロックを使った説明が各社掲載されているが、啓林館は5個の数図ブロックを2列並べて、10を表しているところ、他社は10個の数図ブロックを1列に並べて表している。児童も教員も10を5の2段で捉えていると考えられ、啓林館が継続使用となればそのイメージも継続して指導ができる。

・ 理科と生活科について、各社で教科書の大きさ（サイズ）が異なるが、その点は検討されたか。

→ 理科の授業ではタブレット端末を使用することが多く、大きな教科書は机上にタブレット端末とともに広げた際、学習しづらいおそれがある。また、軽い紙を使用するなど工夫されてはいるが、サイズが大きくなると比例して重さも大きくなることも考慮している。

→ 生活科は大きな教科書もあるが、評価はレイアウトなどの見やすさを優先している。

- ・ 理科について、道徳教育の推進の視点で評価が分かれている理由は何か。甲乙が付け難い中、評価されていると理解している。
- 伝統文化についての記載が特に少ない点などを踏まえて評価している。
- 全社とも文部科学省の検定は受けており、一定水準は保たれているため、「やや劣る」という評価は他社と比較したものである。
- ・ 体育科（保健）について、心の健康という点で日本の子どもには課題があるという見方もある。心の健康については各社取り扱われているが、特徴的なものはあったか。
- 学習指導要領に則り、取り扱う内容について差はないが、出版社によっては著名人のエピソードを取り上げたり、イラストを効果的に載せたりしているものもある。
- ・ 外国語科について、高い評価となっている教科書の決め手は何か。
- 観点2視点3の表現する活動〔発表〕の工夫について、話し手だけでなく、聞き手がどのように反応するとよいかという表現例についても分かりやすく記載している点を評価した。また、英語を母国語としない国の英語の音声も取り扱っている点など、僅差であったが、総合的に評価した。
- ・ 外国語科について、日本語を母語とせず、英語が第2、第3言語となるような子どもへの配慮がなされているものはあったか。
- いずれも日本語をベースにした教科書となっているが、英語を母語とする国以外の文化・生活をどの出版社も多く取り上げており、国際理解について配慮されている。

(2) その他

- ・ ユニバーサルデザインについて、これまでは困りを抱えた子どもに向けた配慮という視点だったが、これからは多様性に配慮する視点が必要である。発問の仕方や挿絵などについて、多様性に配慮されたものは見られたか。
- 性別役割分担への配慮や様々な子どもたちが一緒に活動する挿絵などが意識的に取り入れられており、共生社会が意識されている。